

◇ 専門部会記録

令和5年度 両沼・耶麻中学校教育研究会 第一次研究協議会 記録

期日：令和5年7月 26 日（水曜日） 会場：喜多方第三中学校

部会名	保健体育	部会	部会長名	耶麻：斎藤 一範 両沼：五十嵐 真由美
【研究主題】「体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどのようなものか。」				
【副主題】運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善（体育分野）				
指導助言者	会津教育事務所指導主事 佐藤 雅司 先生			
発表者	全員（一校一発表）			
司会者	小野里 武（喜多方二中）			
記録者	佐藤 又志（喜多方三中）			

No.	参加者名	所属校	No.	参加者名	所属校
1	古川 貴仁	裏磐梯	10	佐久間 唯	土塩原一
2	佐藤 大志	喜多方三中	11	長峰 悠真	山都中
3	塩川 健二	西会津中	12	河西 孝浩	塩川中
4	古川 三枝子	新鶴中	13	斎藤 一範	裏磐梯中
5	目黒 彩奈	喜一中	14	五十嵐 真由美	坂下中
6	仙波 修哉	金山中	15	小野里 武	喜二中
7	小椋 祐輔	昭和中	16	馬場 亮太	会北中
8	言野 友晴	坂下中	17	笹 原 頼	高郷中
9	渡部 泰子	喜多方二中	18		

1. 開会 9:20~

2. 部長あいさつ 指導即言者紹介

3. 本時の司会(小野里先生), 記録者(佐藤)

4. 研究協議(1) 9:25~

「喜一」 水泳 ① オリエンテーションの工夫

事前指導で飛び込みをしたらどうなるかを
考えさせる。

② 学習スタイル

見学者にタブレットで動画を撮影する

成果→授業に参加できなかった生徒も、違う形で参加できた。

課題→違う写真や動画をとり生徒がいた。

「喜二」 跳び箱運動

・ 実技教科書のアプリ版の活用

・ 学習カードを作成し、他へ共有した。

・ 自他の課題を動画を確認することになった。

「喜三」

「会北」

・ 学習カードの活用→授業などの課題やゲームでの反省につなげる。

成果→陸上で観察の視点を明確にすることで、自ら場所の工夫をする
生徒が出てきた。

「塩川」高跳び

Jambord の活用, タイムシフトやXラの使用

ゴムバーを活用した。

能力別に分けたが、教える場面がつかえなかった。

「山都」 ソフトボール

- 動画の視聴→ポイントを提示
- グループで撮影した動画を振り返る

「高郷」

- 前年度の師たちや先輩たちのビデオを見せる。) オフィス・アクションの工夫
- 遊びの要素を取り入れる
- 学習カードで評価、感想と書きせ、振り返らせる

「北一」 バドミントン

- ダブル→1ペアを教員側が工夫
- 動画アプリ「ロイロノート」を活用

休み時間、家庭などでスポーツを楽しめている。

「裏中」 バレーボール

- 動画で課題の確認
- バレーコートだけでなく、バドミントンコートを使用した。
- ラリーを撮影し、ポイントをしぼって視聴させた。
- 遅延アプリの活用

「西会津」 ダンス 4拍の4拍子

- グループで曲のイメージを出し合い、振り付けを考えさせた
- ICTを活用し、修正点を確認した。

「坂下」 跳び箱

- NHK school1で検索する動画を確認、足りないものはYouTubeで。
- グループ「自分や習得している技」

「新鷗中」

・音楽をやけばアップ

→柔軟性の向上をはやめるよう、ストレッチを入れる

・課題解決を Youtube を活用

「金山中」 ハードル走

・導入の工夫 → 前時の動画を振り返らせる

・前時の写真を貼リッ、スフプリントに課題を書かせた。

バレエ

・蓄積した動画で、よりよい作戦をつくる

・ゲームの動画をとる → 新たな作戦やてきる。

・ワークシートやホワイトボードでの共有

「昭和和」 ソフトボール

・動画でルール、各技能のポイントを確認

・バックラインフォームを撮影

水泳

・平泳ぎ、背泳ぎでスモルラーチャーを生徒にやらせ

課題：運動量の確保

(1) 質疑応答 10:35~

(2) 指導助言 佐藤雅司様 (資料)

「個別最適化学習」= 個々の子どもの学習適性の適合度を最大化する。

「協調的学習」= 学びの場の中心

→ 孤立した学習に陥らないよう、協調の充実を。

異なる考えや組み合わせ、よりよい学びを生み出す。

ICT活動の期待

- 遅延する、そうではないかの二極化 ○ 課題発見→解決
○ 遅延時間の減→休校低下) 課題

↓
ICTの効果的に活用

↓
(期待できる姿)

遅延や好きになる、意欲が高まる 主体的に取り組む

○ 評価の改善

(1) 基本的な方向性 (2) 評価計画を作成するにあたり

(3) 主体的に学習に取り組む態度の評価について

① 粘り強さの側面

② 自己調整の側面

○ 作やテスト結果から

小1～中1 女子は全国平均と一致している

小1～小4 男子

中学生になると平均と一致しなくなり、

○ 肥満傾向出現率

- 自衛手帳の活用

○ 教科横断的な視点、

(4) 部長あいさつ

5 協議・諸連絡 11:15～

(1) 県大会 両沼: 宮野友晴先生 取麻: 馬場亮太先生

(2) 二次研 10月25日(木) 両沼(坂下中)

② ICTの情報交換 (1時間 15分ほど) フォレット持参

① ケガ防止について (45分) 小野里先生

集合時間 等は 後日お知らせ

二次研 司会 仙波先生 記録 古川先生

研究主題	体育や保健の見方、考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうあればよいか	
研究副主題	運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善 ～体育分野～	
研究の方針	イ 既習事項等を活用しながら仲間とともに課題解決に取り組む指導の工夫について	
研究の実践	運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫	活用するツール、活用の工夫
	○導入・まとめでの学習カードの活用。 ○撮影した動画の活用。 ○観察の視点を明確にする指示やチェックシートの活用。 ○ゲームのルールを生徒が考える場を設定する。 ○ホワイトボードを活用し話し合い活動を促す。	・タブレット端末・ビデオカメラ ・学習カード（授業ごとの課題やゲームでの反省をつなげていく。） ・動画を活用し、自分自身や他者の動きや技術から課題を発見し解決に取り組む。 ・観察の視点を明確にすることで動画の撮影角度や話合うポイントも明確にする。 ・ホワイトボード（自校の生徒にとっては最も有効なツールと感じている）
場面設定や活用の意図	○導入の課題設定時に学習カードを活用し、前時の反省や課題を生かす。 ○導入で撮影した動画を視聴し課題の設定に生かす。 ○課題に迫るため、ルールやコートに工夫をしたゲームを行う。 ○ゲームとゲームの間や終了後に課題への振り返りを設定し学習を深めることや次時の課題へとつなげる。	・バレーボールやサッカーでは、少人数でのゲームや練習を行い、さまざまな役割を経験することに配慮した。よりプレーに関わり、主体的に考えることを狙った。 ・スローの動画は動きの観察にとっても有効になった。 ・少人数・狭いコートで多くの種目に取り組んだ。 ・話し合いからすぐにプレーの改善とまではなかなか結びつかないが、どう改善するかまでは多くのチームが考えられていた。
考察成果・課題	○陸上競技では観察の視点を明確にすることで、アドバイスの声が増え、動画の活用もより促された。チェックシートもより視点を絞ることにつながった。ハードル走においては、場の工夫に生徒自ら取り組む様子が見られた。 ▲学習カードの活用では、反省・課題設定につなぐのに不十分だった記述項目だったように感じる。また、その場で生徒の意見を吸い上げて課題の発見や学ぶ意欲を高めることへ導くコーディネート力をさらに高めたいと感じる場面が多くあった。生徒だけで課題の解決まで進む機会もあったが少ない。教員側でさまざまなしな付けを準備できるようにしたい。	

耶麻・両沼 保健体育部会 第一次研究協議会資料

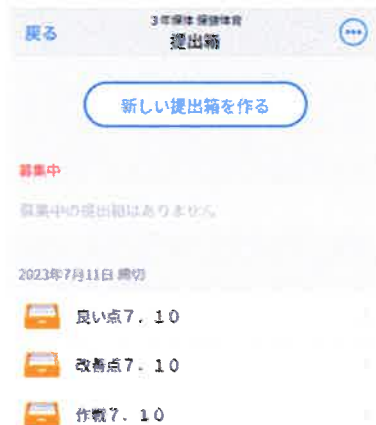
(学校名 北塩原村立第一中学校 氏名 佐久間 唯)

単元：ネット型球技（バドミントン）

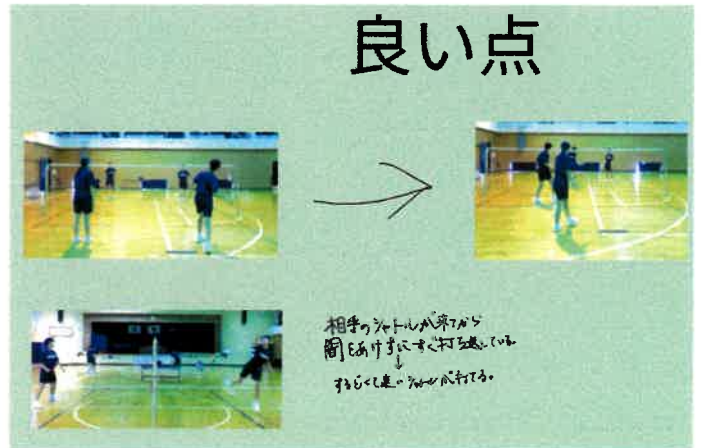
研究主題	体育や保健の見方、考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうあればよいのか	
研究副主題	運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善 ～体育分野～	
研究の方針	イ 既習事項等を活用しながら仲間とともに課題解決に取り組む指導の工夫について	
研究の実践	自他の課題の取り上げ方	活用するツール、活用の工夫
	1、自分たちの動きを知る。 2、よい点や改善点を考える。 3、作戦を考える。 1、2、3 パートナーで考える	使用：ロイロノート 1、動画撮影① 動画共有② 2、その日のノートを作成 (1) よい点、改善点、作戦を考え資料箱へ提出 (2) 授業ごとにノートを作成
場面設定や活用の意図	1、自分たちの動きを知り、<u>すぐに解決可能な課題</u>を見つけ、意識して実践させる。 2、自分たちが考えた作戦を実行できているか、他のパートナーとグループになり分析をする。	
考察 成果・課題	○ロイロノートのカメラ機能は、再生倍速を変更すること、操作が容易であるため、チームの課題を見つけやすい。また、パートナーと動画を共有し、授業毎に気づいた事を記入、蓄積することで、技能の向上に気づくことはもちろん、単元の思考の流れに気づくことができるようになった。その思考の流れや、向上した技能の記録を提出することで、評価の信憑性が高くなった。(と思う。) △全体的に運動能力が低く、課題解決の方法が稚拙である。下位生徒の引き上げが難しいと感じた。 ○休み時間にもバドミントンを実施する生徒が増加した。体育の授業での運動経験を他の場所でも実施する意欲が見受けられた。	



動画撮影・共有



ロイロノート資料箱（提出先）



↑：生徒作成ノート

改善点



- ・カバーが入れる形になっていない。
- ・パートナーが片方によっているときに半分のコートに誰もいない。
- ・自分が打ちづらいところで打ってるから外しやすい。
- ・打ったあと変な体制になってるからもとの形になるのが遅くなる。

卓志・叶望

作戦

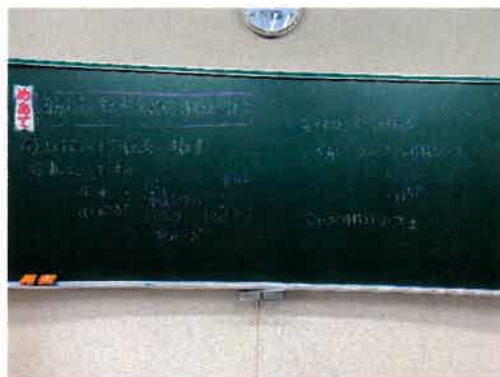
- ・スペースががら空きだと気づいたら、気づいた瞬間にはもう元のフォーメーションに戻れるようにする。
- ・真ん中に来たシャトルは二人で狙わない。
- ・激しい打ち合いになったら、前に注意する。

↑：生徒作成ノート（動画をスクショしたようです。）

↑考えた作戦（全て別生徒です）



↑：分析中のペア



↑その日の板書



ベース型球技はWBがよかったようです。↑